

Q24 D24 M24 Firmware 4.0.4.28 → 4.1.4.11 変更点
D14 T24 Firmware 4.1.1.21 → 4.1.4.11 変更点
(Q24 , D24 , M24 , D14 , T24 共通事項)

1. Event Overview (Setup Menu) -----	2
2. Video Motion (Event) -----	5
3. Action Group Termination (Event) -----	7
4. Event Logic And (Event) -----	8
5. タイムタスク (Event) -----	9
6. Download Support Information (Admin Menu) -----	9
7. 温度記録 (Admin Menu) -----	10
8. 検索エンジン巡回の制限 (admin Menu - 言語とエントリー画面) -----	11
9. 時刻調整 (Admin Menu - 日付と時間)	
9-1. クライアントとしての機能説明 -----	11
9-2. サーバとしての機能説明 -----	13
10. その他 -----	13

1. Event Overview (Setup Menu)

イベントに関する項目が変更され、よりシンプルに、より多機能になりました。

変更前

イベントコントロール

- イベント共通設定 (動作待機とイベントLED)
- イベント設定 (ビデオモーション、周期イベント、ユーザクリック、.....)
- イベントフィルタ (イベントカウンタ)
- イベントロジック (発生順序)
- 記録 (イベント、連続&スナップショット記録)
- [Action Group Overview](#) (Phone Call, SMS, FTP, E-Mail, ... on Event)

変更後

イベントコントロール

- イベント共通設定 (動作待機とイベントLED)
- [Event Overview](#) (trigger reactions based on internal and external sensors)
- [Action Group Overview](#) (notify users or perform actions on events)
- 記録 (イベント、連続&スナップショット記録)

以前までは、ビデオモーションと明るさセンサが2系統あり、それ以外のイベントは1系統ずつと制限がありました。

Firmware 4.1.4.11ではこの制限が撤廃され、例えばビデオモーションを10箇所、まったく別々のトリガーとして使用できるようになりました。

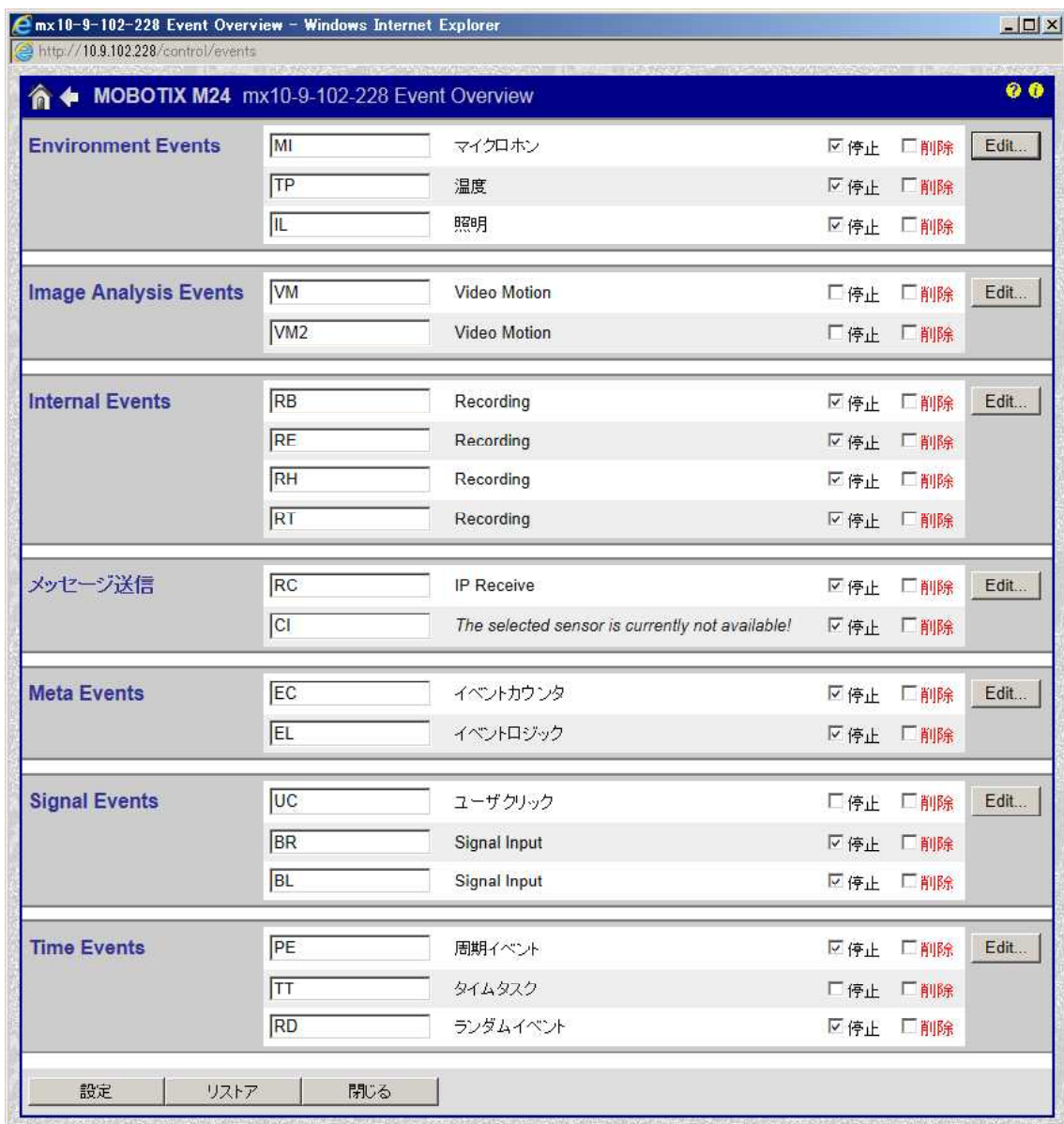
個々のイベントを別々に設定するために、イベントの項目でもプロファイルのような形式で設定して頂くようになります。

Event Overview 画面を開くと、各イベントが7つの項目に分けられて表示されます。

例えばVideoMotionイベントを使用したい場合には、Image Analysis Events にある Edit ボタンをクリックすると、イベント作成画面に入れます。

Action Group Overview は最大20項目まで設定出来ます。

Event Overview の画面



●Environment Events

マイクホン、温度、照明 の各イベントはここで設定します。

イベントリストには、Environment: で始まる名前が表示されます。

●Image Analysis Events

ビデオモーション(詳細は項目2で説明) イベントはここで設定します。

イベントリストには、Image Analysis: で始まる名前が表示されます。

●Internal Events

記録に関するフラグ、ActionGroupTermination(詳細は項目3で説明)、
Castom Signal の各イベントはここで設定をします。
イベントリストには、Internal: で始まる名前が表示されます。

●メッセージ送信

IP Receive イベントはここで設定をします。
イベントリストには、Message: で始まる名前が表示されます。

●Meta Events

イベントロジック、イベントカウンタ、EventLogicAnd (項目4で説明) の各イ
ベントはここで設定をします。
イベントリストには、Meta: で始まる名前が表示されます。

●Signal Events

ユーザクリック、カメラのL/Rボタン の各イベントはここで設定をします。
ExtIOが接続されている場合には、ExtIOの各ボタンや信号入力などのイベントもこ
こで設定をします。
イベントリストには、Signal: で始まる名前が表示されます。

●Time Events

周期、ランダム、タイムタスク (項目5で説明) の各イベントはここで設定をします。
イベントリストには、Time: で始まる名前が表示されます。

2. Video Motion (Event)

4.1.4.11から、VideoMotionの設定方法が変わりました。

簡単に申しますと、各VideoMotion枠にID番号が振られ、どのID番号の検知枠を使用するか、ID番号で指定するようになりました。

イベントの設定をする前に、画面上部の「特性」の項目で今回追加された部分を示します。

特性	値	説明
Video Motion Windows	<input checked="" type="checkbox"/> Hide Unused Windows 常時表示 / イベント時ハイライト表示 <input checked="" type="checkbox"/> ビデオモーションのID番号を表示します。 <input type="text" value="0"/> オフ	Hide Unused Windows: If this box is checked, motion windows that are not used in any of the event profiles will not be displayed or evaluated. グループ1のビデオモーションスタイル: モーション検知領域の表示 ビデオモーションのID番号を表示します。: それぞれのエリアの左上に、ビデオモーション定義のライン番号を表示します。 Video Motion Suppression Time: Disable motion detection for this duration [0..30000ms] after a reference window has triggered. 工場出荷時設定値: 0 (disables motion detection in current image only). Low-Light Suppression: Disables motion detection if illumination drops below selected value. Can be set independently for each camera lens.
Edit Window Definitions in Detail	<input checked="" type="checkbox"/> Edit Window Definitions in Detail <pre>0,219,480,101,77,s=20,a=10,id=1 0,849,460,71,36,s=20,a=25,id=2 0,550,562,78,69,s=20,a=25,id=3</pre>	Video Motion Definitions: Format: lens, window lens: 0=right, 1=left. window: can be defined as a rectangle as well as a polygon. For a detailed description of window definitions and additional variables, please refer to the help page . Note: All user-defined coordinates are relative to the entire sensor area. The origin (0,0) corresponds to the lower left corner. (1279,950) to the upper right corner. (if the image is <i>mirrored/rotated</i> the coordinate system changes accordingly).

Hide Unused Windows

リストに入っている検知枠のうち、各videoMotionイベントで選択されていないID番号の検知枠を表示したくない場合にはこのチェックを入れます。

通常はチェックが入っています。

Edit Window Definitions in Detail

ID番号で管理されるようになったため、座標軸の表示がデフォルト状態でオフになっています。

どの座標軸がどのIDなのかを確認する場合には、このチェックを入れると上記のスクリーンショットのように座標リストを表示出来ます。

イベント設定画面

イベント	値	説明
VM		<input type="checkbox"/> 停止 <input type="checkbox"/> 削除
	1	Event Dead Time: Time to wait [0..3600 秒] before the event can trigger anew.
Event Sensor Type	<input checked="" type="radio"/> Video Motion	Event Sensor Type: Choose the image analysis sensor
Motion detection using simple digital image analysis.		
	1,3	Window List: List VM windows (by their ID). If one of the listed windows detects motion, this event is triggered. Entries are separated by commas, and can consist of single windows or ranges (e.g. "1,2,4-7"). The ranges can be open ("3-" or "-4"). Leaving this field empty selects all windows.
<input type="button" value="矩形領域の追加"/>		
<input type="button" value="Highlight selected"/>		

次にイベントを設定する画面です。

VMやVM2といった系統の概念はなくなりましたので、使用するイベントはVideo Motion となります。

ライブ画面上でこれまでと同じように

- ① 左上になる点を、キーボードの左シフトキーを押しながら左クリック
- ② 右下になる点を、シフトキーを押さずに左クリック
- ③ [矩形領域の追加]ボタンを押す

の手順で設定出来ます。

追加すると、前頁の座標リストに自動的に追加され、自動的に振られたID番号が Window List に自動的に入ります。

[Highlight selected]ボタンをクリックすると、現在のイベントで選択している領域が黄色く2回点滅します。いくつもVideoMotionイベントを使用している場合に、どの領域が現在のイベントで使用可能になっているかを確認するのに役立ちます。

デフォルトではVideoMotion Eventは例として2つ登録されておりますが、追加したい場合には、画面下にある [新しいプロファイルの追加]ボタンをクリックしますと欄が追加されます。

3. Action Group Termination (Event)

Action Group Termination イベントは、ある1つの Action Group の動作を監視し、その動き方によって立つフラグのようなものです。

例えば、「VM to Patlite」という名前でAction Groupが作成されているとします。このActionは、VideiMotionが反応したらPatliteを光らせるIP Notify が動く という設定です。

このActionの動作に付随する形でAction Group Termination を設定してみた例を示します。

Action Group Termination イベントは、デフォルトで例として作成されておりませんので、event overview 画面の Internal Events 項目にある Edit ボタンをクリックし、画面下にある [新しいプロファイルの追加]をクリックして新たなイベントを作成します。

Internal Events - Action Group Termination イベント作成の例

Patlite check [停止] [削除]

1

Event Dead Time:
Time to wait [0..3600 秒] before the event can trigger anew.

Event Sensor Type:
Choose the internal sensor

Event Sensor Type

- Action Group Termination
- Custom Signal State
- Recording

Trigger an event if an [Action Group](#) finishes execution.

VM to Patlite

Failed

Action Group:
When the selected Action Group finishes with the specified result, this event is triggered.

Execution Result:
An Action Group execution is successful, if at least one of its subactions succeeds.

Event Sensor Type Action Group Termination を選択します。
Action Group 動作を監視するAction Group を選択します。
Execution Result 選択したAction Group がどのような状態になったら動かすかを選択します。

Failed Action Group がエラーになったら
Succeeded Action Groupが正常動作したら
Aborted Action Groupの正常/失敗に関係なく

上記の設定例ですと、Patlite に対してIP Notify で信号を送り、何らかのエラー、例えば ・Patliteの電源が入っていない ・ネットワーク障害などでエラーとなった場合にこの Action Group Termination イベントがトリガされます。あとはAction Group Overviewにて「Internal: Patlite check」イベントと、Patliteのエラーを知らせる何らかのアクションと関連付ければ、Patliteへの通信障害を感知する事が出来ます。

Action Group Termination は、こういった使い方の出来るイベントになります。

4. Event Logic And (Event)

複数のイベントの指定時間内のカウントを行う「イベントカウンタ」、2つのイベントの順番でトリガする「イベントロジック」。

この2つは別に、複数のイベントが同時に発生、もしくは同時に未発生 の場合にトリガをかけることの出来る「Event Logic And」というイベントが新設されました。

ここでは、2秒間の間にVM,VM2,VM3の3系統に動きがあった場合にトリガされるイベント設定を例として示します。

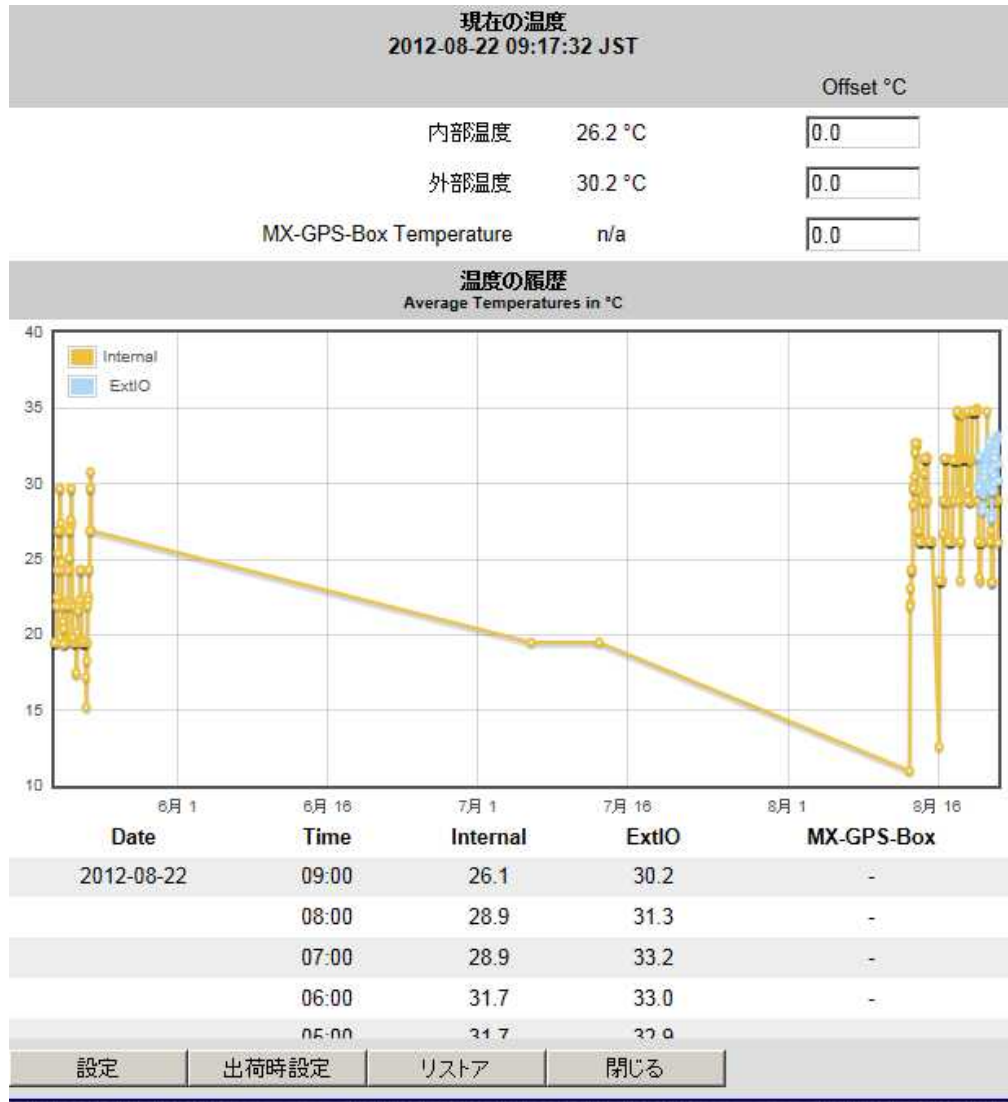
Meta Events - Event Logic And 設定画面

The screenshot shows the configuration interface for a Meta Event named "VM1-3(2s)". At the top right, there are buttons for "停止" (Stop) and "削除" (Delete). The "Event Dead Time" is set to 2 seconds, with a description: "Time to wait [0..3600 秒] before the event can trigger anew." Under "Event Sensor Type", "Event Logical And" is selected. Below this, a note states: "Trigger only if all events occur within the specified time window." The "Condition" is set to "All". The "Events to Combine" list is populated with: "(Environment: PI)", "Image Analysis: VM", "Image Analysis: VM2", "Image Analysis: VM3", and "Internal: Patlite check". The "Maximum Delay" is set to 2 seconds, with a description: "Maximum time between first and last source event [1..3600 秒]". The "Action Type" is set to "Every", with a description: "Select if the trigger remains true while the condition is fulfilled, or if it is only true when the condition becomes fulfilled."

Event Sensor Type	Event Logic And を選択します。
Condition	Events to Combine で選択されたイベントがこういった状態になったらEvent Logic Andをトリガするかを選択します。 All 全てに反応があったら not All 全てに反応がなかったら
Events to Combine	監視対象のイベントを選択します。
Maximum Delay	監視対象のイベントのいずれかが発生してから監視する時間を秒単位で設定します (最大3600秒)
Action Type	トリガを発するタイミングをいつにするか を設定します。 First 最初の1回のみ Every 毎回

7. 温度記録 (Admin Menu)

カメラ内部の温度センサの記録を折れ線グラフで表示するようになりました。



extIOを接続していると、外部温度としても記録されます。

横軸の長さの変更は出来ません。

8. 検索エンジン巡回の制限 (admin Menu - 言語とエントリー画面)

検索エンジンの自動巡回でカメラの情報を拾わせないようにすることが出来るようになりました。



Web Crawler Restrictions

Crawling allowed	巡回を許可する
Crawling forbidden	巡回を禁止する

9. 時刻調整 (Admin Menu - 日付と時間)

9-1. クライアントとしての機能説明

監視カメラにおいて、機器の時刻同期は放置できない問題となってきました。そのため、時刻同期に関してはNTPサーバとの同期がほぼ必須になって参りました。カメラの時刻同期画面も、NTPサーバとの時刻同期を主体とした画面構成に変更されております。

デフォルトの状態

Time Settings	Value	Explanation								
Time Zone	Asia Tokyo	Select the time zone the camera is located in. Note: You need to reboot the camera after you have changed the time zone! You can download a list of time zone codes for setting the time zone via Keyless Entry.								
Hourly Sound	None	Select a sound to be played back every hour.								
Time Servers	No remote servers	Select the protocol offered by remote time servers. Note: Using Time Protocol is deprecated. It is less accurate and prevents using the MX-GPS-Box to provide precise timing.								
Use Camera as Time Server	<input type="checkbox"/> Activate	Check to use this camera as NTP time server. Enter its address as a time server for all cameras in your subnet to keep them synchronized.								
Time Status										
Current Camera Time	2012-08-22 10:08:21	This is the current time of the camera. Click here to set it manually.								
Local NTP Service										
remote	refid	st	when	poll	reach	delay	offset	jitter	condition	last_event
*127.127.45.0	MXRT	12	65	128	3	0.000	-13.908	9.943	sys_peer	sys_peer
設定	出荷時設定	リストア	閉じる							

カメラは通常、NTPクライアントとして動作をします。外部NTPサーバから時刻を取得し、時刻合わせを行います。

NTPサーバを設定する場合には、Time Services を NTP に変更します。

Time Settings	Value	Explanation									
Time Zone	Asia Tokyo	Select the time zone the camera is located in. Note: You need to reboot the camera after you have changed the time zone! You can download a list of time zone codes for setting the time zone via Keyless Entry.									
Hourly Sound	None	Select a sound to be played back every hour.									
Time Servers	NTP	Select the protocol offered by remote time servers. Note: Using Time Protocol is deprecated. It is less accurate and prevents using the MX-GPS-Box to provide precise timing.									
	<input type="text"/>	Enter time server address(es).									
	<input type="text"/>										
	<input type="text"/>										
Use Camera as Time Server	<input type="checkbox"/> Activate	Check to use this camera as NTP time server. Enter its address as a time server for all cameras in your subnet to keep them synchronized.									
Time Status											
Current Camera Time	2012-08-22 14:48:50	This is the current time of the camera. Click here to set it manually.									
Local NTP Service											
remote	refid	st	when	poll	reach	delay	offset	jitter	condition	last_event	
*127.127.45.0	.MXRT.	12	65	128	1	0.000	-13.094	0.002	sys.peer	sys_peer	
設定			出荷時設定			リストア			閉じる		

そして、その下にNTPサーバのIPアドレスを入力します。

入力後、左下の[設定]ボタンを押すと、NTPサーバと通信を行い、通信が確立すると画面下の Local NTP Service 欄に設定したNTPサーバの情報が追加されます。また、NTPサーバIPを入力した欄の右側にあるステータスランプが緑色になります。

例として 192.168.0.236 と入力をして設定した場合（正常認識）

Time Servers	NTP	Select the protocol offered by remote time servers. Note: Using Time Protocol is deprecated. It is less accurate and prevents using the MX-GPS-Box to provide precise timing.								
	192.168.0.236	Enter time server address(es).								
	<input type="text"/>									
	<input type="text"/>									
Use Camera as Time Server	<input type="checkbox"/> Activate	Check to use this camera as NTP time server. Enter its address as a time server for all cameras in your subnet to keep them synchronized.								
Time Status										
Current Camera Time	2012-08-22 14:57:23	This is the current time of the camera. Click here to set it manually.								
Local NTP Service										
remote	refid	st	when	poll	reach	delay	offset	jitter	condition	last_event
*192.168.0.236	LOCAL(0)	6	1	64	1	0.312	0.039	0.559	sys.peer	sys_peer
+127.127.45.0	.MXRT.	12	7	128	1	0.000	-278.78	0.002	candidate	sys_peer

もし通信が確立しない場合には、入力欄の右側のステータスランプが赤色になります。その場合にはNTPサーバ側の通信ログを確認の上、対処をお願い致します。

9-2. サーバとしての機能説明

時刻同期に関しては、カメラ自体をNTPサーバとして動作させることが出来るようになっていました。

ただし、カメラをNTPサーバとして動作させるには、このカメラが正常な時刻を別のNTPサーバから取得していることが前提となります。

NTPサーバを動作させる場合には、Use Camera as Time Server にチェックを入れて、画面左下の[設定]ボタンをクリックします。

設定が完了したら、他のカメラのNTPサーバ参照先をこのカメラのIPアドレスにして設定を行って頂ければ、このカメラから時刻を取得することが出来ます。

10. その他

- ・ Firmware 4.0.4.28 で不具合の発生しておりました照明イベントが改善されています。
- ・ ソフトボタンの画面で、最初に真っ白なページが表示されてしまう問題が修正されています。
- ・ ボイスメッセージの保存容量が4000kbyteから40000kbyte以上に増量されています。